

アントニ・ガウディが植物から見出したものを調べてみましたん

植いき新聞



植物いきいきサークル

第77号

発行者: 犬丸、
Ⓢ (疋田、中嶋)

アントニ・ガウディ (Antoni Plàcid Guillem Gaudí i Cornet : 1952-1926)¹⁻³⁾は、サグラダ・ファミリア、グエル公園などの作品で知られるスペインのカタルーニャ地方出身の建築家である。幼少時代は、リウマチで病弱であり、学生時代は、バルセロナ建築学校で学ぶも、当時の校長であった建築家のアリアス・ルジェンは、「彼が狂人なのか天才なのかはわからない、時が明らかにするだろう」と言ったと伝えられ、当時の彼の人となりがうかがわれる。しかし、1878年に建築家となり、1883年にサグラダ・ファミリアの主任建築家に推薦されたのを機に、その後は、繊維会社を経営する富豪エウセビオ・グエルにその才能を見出され、カサ・ビセンエル・カプリッチョ、グエル邸、パウラ・グエル、カサ・バトリョ、カサ・ミラ、グエル公園、コロニア・グエル教会などを手掛け、他に類を見ない独自の建築設計を確立した。

彼の多くの作品の中でも、最も有名なのは、やはりサグラダ・ファミリアであろう。



図1 サグラダ・ファミリアの内装

そのサグラダ・ファミリアは1883年に着工したが、いまだ建築中で、完成していない。このように主任建築家の死後も建築され続けている建造物とはとても珍しい。その理由に、ガウディの建築設計には多くの人が魅了される何かがあるからである。何かとは何か？ その例

を図1に示す。図1はサグラダ・ファミリアの内装であるが、これを見れば普通の建築設計とは異なることが一目で分かる。実はこれらの設計の元となるヒントは、植



図2 サグラダ・ファミリアの設計のヒント⁵⁾

物などの自然界の物にある。図2をみると、それがよく分かる。その他にも、貝殻や葉っぱなどにもヒントを得ている。ガウディ曰く、「芸術におけるすべての回答は、偉大なる自然の中にすべて出ている」⁶⁾のである。すなわち、植物を含め、自然界の物の造形には、人知を超えた意味があり、「神の創造に寄与する」³⁾という言葉をも残したガウディは、常にそれを模索していた建築家であったのであろう。

いまだ建築中のサグラダ・ファミリアであるが、2026年に完成するとの予定もある²⁾。しかしながら、我々のサグラダ・ファミリアは、2015年の6月末にすでに完成したv(ㄣ ㄣ)v(図3)。完成するまでの作業は、とても充実した時間を過ごせ、神の創造に近づいたのは言うまでもない(〇 ㄣ ㄣ 〇)ヘッ♪。



図3 完成したサグラダ・ファミリア

1) <https://ja.wikipedia.org/wiki/アントニ・ガウディ> (閲覧 2015. 7. 13)

2) <https://ja.wikipedia.org/wiki/サグラダ・ファミリア> (閲覧 2015. 7. 13)

3) ガウディの伝言. 外尾悦郎 著. 光文社. 2006.

4) <http://ngm.nationalgeographic.com/2010/12/big-idea/gaudi-text> (閲覧 2015. 7. 13)

5) <http://www.sagradafamilia.org/en/geometry/> (閲覧 2015. 7. 13)

6) <http://grapefruitmoon.info/アントニ・ガウディ.html> (閲覧 2015. 7. 13)